

課題名 「君津イオンの森づくり」の取り組みについての事例紹介

公財財団法人イオン環境財団 山本 百合子

1 課題を取り上げた背景

当財団は日本で初めて地球環境に特化した民間企業の財団法人として、1990年に設立され、以来、世界各地の多様なステークホルダーの皆さんと共に「植樹」「環境活動助成」「環境教育・共同研究」「顕彰」の事業を中心に活動を推進しています。現在は持続可能な地域社会の実現を目的に、新たな里山づくりにも取り組んでいます。林野庁との協働の取組として、2020年12月に協定を締結し、千葉県君津市では、モデルプロジェクトの森において「君津イオンの森づくり」として小中学校、NPO、NGO、関係行政機関及び有職者など、森と人の関わりを創出し、地域ボランティアの皆さんと共に活動を行っています。

2 具体的な取組

「君津イオンの森づくり」での実施計画

- (1) 森を再生すると共に、様々な森林体験ができるよう「君津イオンの森」のゾーニングを行います。
- (2) 植樹エリア、地域の自然植生エリア苗畠エリアを設け、同時に君津市の花であるミツバツツジをはじめ、千葉県に自生する17樹種を5年間で計6,000本植樹します。



君津イオンの森 植樹

取組事例紹介

君津イオンの森づくり

- (1) 植樹
- (2) 育樹(メンテナンス)
- (3) 千葉大学院生 研究フィールド
- (4) 環境教育
渋谷区立代々木中学校
- (5) イオン各社との連携

- (3) 小中学生をはじめ、地域ボランティアの皆さんを対象に、森の整備や苗づくりなどの体験を通し、森とのふれあいや環境教育の機会を創出します。

3 取組の結果

「君津イオンの森づくり」での2021年～2025年の主たる取組の結果は、以下のとおりです。

- (1) 森林の再生を目指し、2021年～2023年の3年間で4回の植樹を実施し、植樹本数は7,440本、参加人数は1,760名となりました。また、イオン各社従業員の植樹や育樹、里山づくりの体験の場として活用されています。
- (2) 2021年より年2回(上期、下期)の下刈を継続して実施しています。
- (3) 2021年の植樹をきっかけに、君津イオンの森は千葉大学大学院園芸学研究院のランドスケープ学実習の場として、景観・生物多様性・利活用に配慮した里山づくりの研究に活用されています。学生が実習の成果を年1回、報告書にまとめ、成果報告を行っています。
- (4) 渋谷区のプロジェクトである「探求シブヤ未来科」の一環として、代々木中学校の2学年生徒に向け、イオン環境財団が出張授業を行っています。2025年は、前年12月に生徒が行ったプランター植樹体験から約1年間、生徒自身が育てた苗木を、君津イオンの森に移植する体験をしていただきました。

4 まとめ

「君津イオンの森」は、「お客様を原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、様々なステークホルダーが、里山づくり、環境教育、研究活動を体現できる場所として活用されています。人と自然が共生する持続可能な新しい「イオンの里山づくり」のモデル地区として、今後も継続して取組を行ってまいります。